

## 寺田縄地域の河川と橋（1） 鈴川、東橋 あすまばし

### ① 河川：

鈴川は、寺田縄地域の東方面を流れています。  
金目川は、寺田縄地域の西方面を流れています。

### ② 主な農業排水路： 北から

会下後（えのしろ）排水は、鈴川に流入します。  
金田（かねだ）排水は、古川排水と合流の後、鈴川に流入します。  
古川（ふるかわ）排水は、金田排水と合流後、鈴川に流入します。

### ■ 鈴川：

洪水が多発し、防災のために様々な河川改修が行なわれてきたと考えられます。しかし、その記録が残されず、具体的な改修の様子を知ることができません。詳細な地図の作製は、明治時代になってからで、それ以前は、概略を示す絵地図が残されているのみです。

一般的な、河川の改修の方法は流れを直線にして、堤防の決壊を防ぐ工法を取ります。次の頁、2枚の地図を見ると、鈴川の流れは南北に真っ直ぐ流れています。自然の流路ではないことが歴然です。平坦地を流れる河川は蛇行（だこう）します。文字通り、蛇が曲がりくねるような流れになります。

これまでに、鈴川の蛇行していた流れをほぼ直線に改修した事が、現在の住所表示に反映されています。それについては「東橋」の項で説明します。

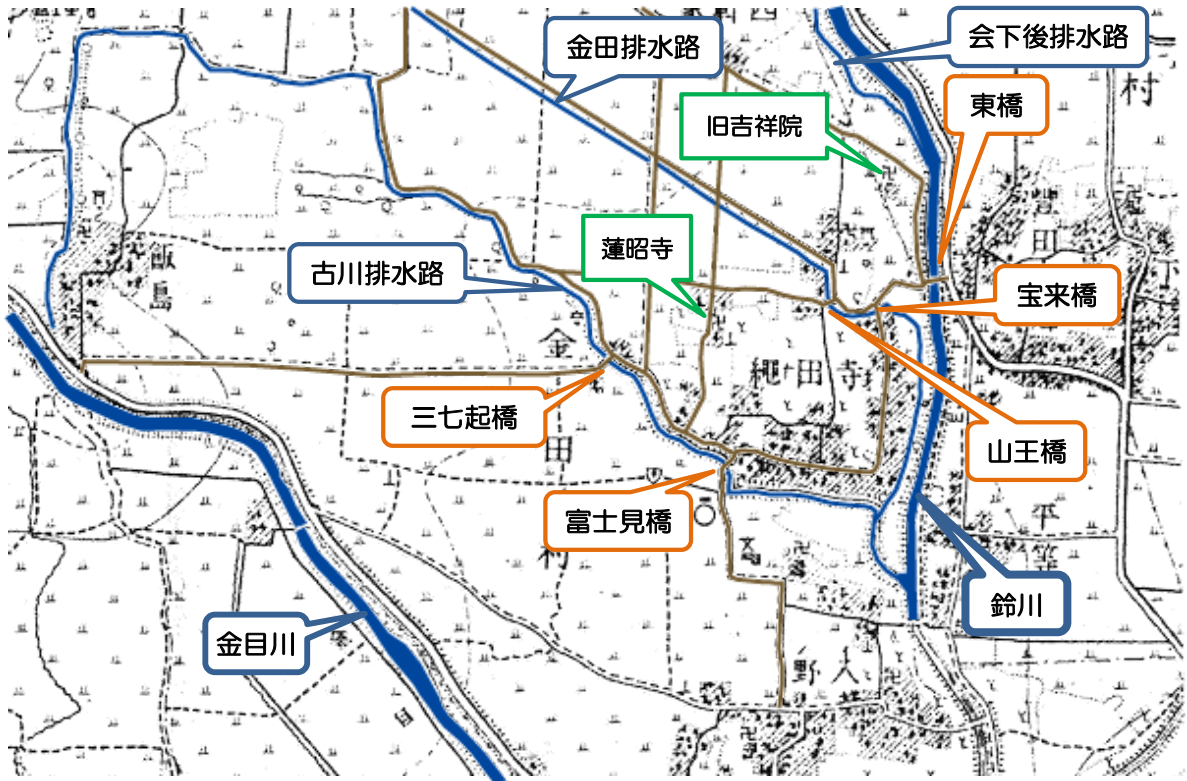
### ■ 主な農業排水路：

大きな排水路は、北から、会下後・金田・古川排水路と三本あります。いずれも、鈴川に流れ落ちます。冬の間の水量は底が見えるほどに減少します。寺田縄地域は水田耕作地帯で、耕地整理で整えられた水田が広がっています。コメの栽培時期には、水田を満たした用水が集められ排水路を経て、最終的には鈴川に流れます。

寺田縄は、既に紹介したように、西に高く東に低くなる地形のため、水を東に流しています。（鈴川はその東部方面の諸地域に灌漑用水として充たしています）

■ 大正13年（1924）

（大正13年国土地理院発行地形図・改）



■ 平成14年（2002）

（平成14年国土地理院発行地形図・改）



## ① 河川、排水路と橋

### 鈴川

- ・大正13年 寺田縄の東部「東橋」を経て南に流れます。
- ・現在 道路が整備され、大規模な流路変更がなく「東橋」を南に流れます。

### 金田排水路

- ・大正13年 南東方向に下り、「山王橋」、「宝来橋」を経て南に流れます。
- ・現在 金田排水路は一部、暗渠になり、「山王橋」はありません。  
金田排水は「宝来橋」下から、露地に出て南に流れます。

### 古川排水路

- ・大正13年 南東方向に下り、「三七起橋」、「富士見橋」を経て金田排水と合さり、南に流れ鈴川に合流します。
- ・現在 道路整備とともに、「昭栄橋」、「三七起橋」、「西棲橋」、「富士見橋」が架けられています。

### 会下後排水路

- ・寺田縄地域の北部を流れ、鈴川に合流します

## ② それぞれの河川、道路や橋の関係をみます。

### (1) 鈴川

■ 「新編相模国風土記稿の大住郡の項」には『源は大山の溪間所々より出る清水一流となり、大山川と称し、串橋村（伊勢原）に至り始めて鈴川と名づく。南原村（平塚）に至りて玉川（現渋田川）に合す。水路四里十九町（約19km）余、川幅は3間から8間余』

鈴川の水源は「相模大山」の南東斜面の湧水、雨水を集め、始めは「大山川」と呼ばれています。伊勢原市の串橋からは鈴川と名づけられています。平塚市の南原で渋田川、旧名は玉川と合流しその後、金目川と合流し相模湾に流入しています。長さは約19kmになり、川幅は約5.5mから広い所で14.5m程です」

(参考) 現在の鈴川は金目川水系の一部、二級河川となっています。鈴川と命名される川の延長は15.69kmです。(平塚市HP) 現在の川幅は、河川改修が進み江戸期とは流路も異なり川幅も拡幅されています。

『この川を分派して田間の用水とする村々<上糟屋、三之宮、串橋、神戸、長持、丸島、大畑、西海地、矢崎、北大縄、豊田本郷、寺田縄、平等寺、入野、南原、城所、宮下、小峯、大匂、上下子安>あり。水除けの堤を設く。<高さ七八尺>』（風土記稿）

「鈴川の水を取水し、田畑の用水として利用している村々は、金田地区の長持、寺田縄、入野を含め21カ村となっています。高さ2mを越える水防の堤防が築かれています」

現在の金田地区は、岡崎地区榎田にポンプ場を設け、鈴川の水を取水し寺田縄地域と飯島地域を經由して入野・旭地域にも農業用水が送水されています。(用・排水路は後ほど記します)

風土記稿の寺田縄の条(既に本誌で取り上げています)で鈴川について『東方村界を流れる。<幅八間余>板橋を架けている<長さ十一間>堤あり』

「鈴川は村の東にあり、寺田縄村と他の村との境になっています。川幅は約14.5m、板でできた長さ20mほどの橋を架け、堤防も作られています」

(参考)江戸時代の板橋とは、板を渡した橋で、土橋(どばし)という板橋の上を土で覆った橋もありました。

■ 風土記稿に寺田縄の『合わせて広さ三段十一歩の飛地が二ヶ所、対岸の平等寺村にあります。飛地となったのは、鈴川を改修し、寺田縄村を分断するように流したため対岸に寺田縄の土地が残されました』

飛地を作った河川改修が行なわれた時代は、記録がないため正確ではありませんが、氾濫を予防するため、曲がりくねっていた鈴川の流れを真っ直ぐにする改修が行なわれた結果と思われます。

現在の地図を調べると鈴川を挟んで、寺田縄地域に、対岸の「豊田本郷」、「豊田宮下」、「豊田平等寺」という住所名があるのも「豊田地区」を分断する鈴川の改修によるものです。そこには、鈴川の氾濫を防止し家屋や農地を守ろうとした人々の働き、闘いがあったことを知ることができます。

■ 『村のすぐ東側を鈴川が流れていて、昔はこの鈴川がよく氾濫した。水に浸かると豊田などの村から炊き出しの援助があった。個々の家には親戚から助けがあった』(平塚市民俗調査報告書4金目・金田)共に洪水被害に悩んだ地域の相互扶助の関係が読み取れます。

でも、子ども達は、鈴川を挟んで豊田地区の子ども達と石の投げ合い、悪口の言い合い、喧嘩等を盛んにしたそうです。「豊田の祭はたいそう賑やかで、祭り見物に出かける時、豊田のガキ大将の家の前は駆け足で走り過した」とも。川は両者の分離帯の役割をも果たしていたと、懐かしそうに昔話を語ってくれる人たちがいます。

## (2) 「東橋」

■ 江戸時代の古地図にある「橋」は、村界となっていた鈴川に架かり、寺田縄村と東側の村々を結ぶ重要な橋でした。それは江戸時代のみならず、鈴川が流れ、人々がくら



す小田原北条氏の家臣、寺田縄村の領主「布施氏」の時代、いやそれよりも以前、奈良・平安の時代・律令の時代にも鈴川を渡る橋は架かっていたと思われます。

■ 「東橋」付近の小字名（こあざめい）は「出口」（でぐち）と云います。寺田縄から他の地域に出るための所という意味でしょうか。その出口に架かる橋が「東橋」です。

『出征兵士を出口から送ると死ぬと云われた』（平塚市民俗調査報告書4金目・金田）出征兵士の多くは寺田縄の日枝神社で盛大な式典で送られ、「東橋」からではなく「入口」と云われていた「入野から秦野街道」に通ずる道から送り出したそうです。その道は、日枝神社から南に下り、寺田縄の中心である「逆L字型の道路」を経て、富士見橋を渡り入野・長持経由の道だったそうです。（参照大正の地図）



### ■ 「現在の東橋」

左：寺田縄

右：豊田本郷

中央：鈴川

手前の下流で  
淡田川と合流します。



高架橋は東海道新幹線です。

平塚と伊勢原を結ぶ、伊勢原街道の新幹線ガード下に神奈川中央交通のバス停留所「東橋」があります。



「東橋」を渡ると「寺田縄地区」になります。

鈴川の水源地となっている、相州大山が右手に見えます。

「東橋」の南にある高架橋に東海道新幹線が走行します。運転開始は昭和39年、東京オリンピックの年でした。

地図にありますように、新幹線は寺田縄のまちを二分するように敷設され、道路路線の変更・新設、転居した家、騒音・振動被害を受けた家、隣接した小学校は移設されました。

これまでの寺田縄の住民生活が一変する大変革をもたらしました。(2pの地図を参照してください)



### (3) 鈴川の河川改修

鈴川は周辺農業者の灌漑用水として古くから利用されてきました。しかし、金目川と同様にひとたび大雨で、降水量が増大すると鈴川の流量は増し、用水としての取水の宿命でしょうか、洪水の危険性が高くなります。また、平地を流れる河川は曲がりくねり、堤防が切れやすく、豊田地域の人々も、洪水の危険にさらされる頻度が増します。

鈴川流域の人々はたびたびの洪水に悩まされてきた歴史を背負っています。

■ 寺田縄も隣接する鈴川による洪水の被害を被ってきました。洪水からの減災には、河川改修は避けられません。

神奈川県は昭和45年12月に都市計画法に基づき、鈴川を『都市計画河川』に決定し、翌年度から、時間雨量50mmに対応する改修工事が進められてきました。

## ■ 直後の災害

○ 昭和47年7月10日から12日かけて、梅雨前線により神奈川県北西部の丹沢山地で局地的な大雨が降り、大山は329mmの降水量を記録しました。昭和47年豪雨と名付けられています。

○ 2年後の昭和49年7月6日から8日にかけて、台風第8号が停滞していた梅雨前線を刺激し竜巻を伴う大雨をもたらしました。秦野では180mmの降水量でした。前回より降水量は少なくとも、家屋被害件数は多く、山崩れ、がけ崩れ、通信交通被害多発、農林水産業被害と記録されています。

重なる集中豪雨は、鈴川流域にも多大な被害をもたらしました。

■ このような自然災害から流域住民の生命・財産を守り、安心した生活を得るために、鈴川の河川改修が不可欠であるとの観点から、平塚市、秦野市、伊勢原市の三市による「鈴川改修整備促進協議会」が昭和48年5月に発足しました。

鈴川の河川改修の請願は、促進協議会名で昭和53年8月に神奈川県知事宛、11月に国に対して出されました。

## (4) 鈴川の河川改修と東橋の架け替え

■ 旧来の橋は1車線で歩道もありませんでした。この地域の都市化の進展は人口を増大させ、車の交通量も増やしました。1車線の橋では時間によって、対岸の豊田地域にも渋滞の列が並びました。地域の生活環境の整備には、橋だけの拡幅では問題は解決しません。「鈴川の改修」と「東橋」の架け替えは同時進行でなければ意味がありません。

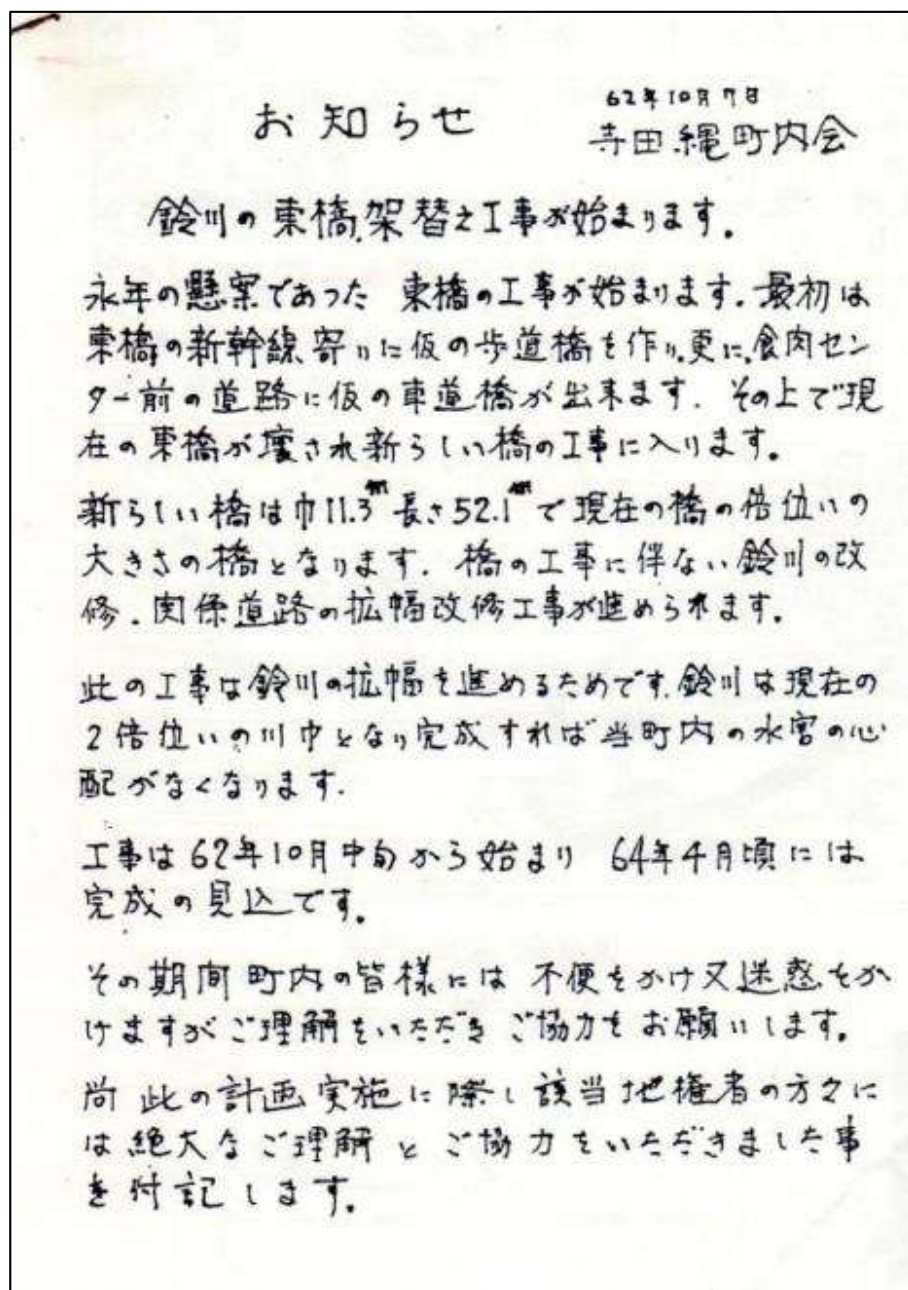
(参考) 金田地区総人口に変遷 『昭和45年から50年の5年間に世帯数では732世帯、人口で2225人の増加となりました。平均すると毎年445人増え、この間の人口は1.6倍になりました。・・・社会的増加が1673人を数えました』(私たちに住むまち金田)

平塚市の人口増は、工場誘致等が進み地方から多くの働き手が流入したことによります。寺田縄に住宅を新築し、集合住宅、市営住宅への入居等多くの人達に移り住んできました。

「東橋」の交通問題の背景の一つとなっています。



- 当時、寺田縄町内会の御尽力もあり、このような「お知らせ」の回覧が出されました。



(寺田縄自治会資料より)

昭和62年(1987)念願の鈴川の拡幅工事と「東橋」の架け替え工事が開始されます。

鈴川は現在の2倍くらいの川幅になり、「東橋」は2車線の車道、幅2mの歩道を取り橋幅は11.3m。長さは52.1mの大きな橋に生まれ変わります。

完成の予定は2年後と計画立案され、工事が始められました。



「東橋」は住民にとって重要な生活橋梁です。次のような工事期間中のう回路が示されました。



(寺田縄自治会資料より)

現在、寺田縄にお住まいの方でこの迂回路を使い、「東橋」の完成を待ち望んだ人たちが大勢いることと思います。その人達は、歴史的瞬間に立ち会ったことになります。

## ■ 鈴川の改修工事



高架橋は東海道新幹線です。対岸は豊田本郷です。

左はサイクリング道路になります。

写真からは見えませんが高架橋の北、「東橋」の工事と共に始められています。



堤防は削られ、「じゃかご」のように並べられた岩石の上にコンクリートの護岸が施されているようです。

工事が進めば、頑丈な土手に代わって行きます。



鈴川の川底にまでパワーショベルが入り作業が進められています。

鈴川の下流、南を見ています。



自治会の「お知らせ」には、川幅が以前の倍ほど、と記されています。

見るからに広く、大きなカーブです。鈴川の流れが改良し堤防の決壊を防ぎ、洪水の杞憂から解放されるに違いなさそうです。



遠くに大磯の高麗山、湘南平の丘陵を見て取れます。

鈴川は、この先で古川排水の流れを受け、渋田川と合流し、金目川と合流、河内川を合わせ相模湾に流れて行きます。

平塚の西部は河川が多く、その水利により、結果として神奈川県下有数の水稲耕作地帯を形成しています。

## ■ 東橋の架け替え



これまで使われていた旧東橋が取り壊されています。大型の重機により工事が進められています。

北の方角を見えています。





重機は橋の残骸を撤去し、新しい橋の基礎を固めます。



コンクリートの橋げたが見えています。工事はだいぶ進捗してきています。



地元の方々が待ち望んだ、2車線、歩道付の「東橋」の完成です。  
対岸は豊田本郷です。

(写真は地元の方のアルバムから拝借致しました)



1989年(平成元年)4月9日 日曜日 (20)

**全長52.2車線 大きく生まれ変わりました**

平塚・豊田地区



不出さん夫妻と共  
際に渡り初めをする  
地域の人たち

## 待望の東橋 渡り初め

### 朝夕の渋滞これで解消

平塚市豊田橋、豊田地区の住民にとって待望の東橋の開通式が八日、架け替えられた同橋の西側袂で行われ、供用が開始された。

同橋は市内の中央を流れる鈴川に架かり、市道幹線の長持寺田縄線など三つの市道から、市中心部へ出る県道平塚伊勢原線とを結ぶ地域の交通のかなめ。だが架け替えられる前は全長21.8㍎、幅員2.4㍎が示すように、車が一台しか通れず、長い間、朝夕のラッシュ時の交通渋滞がひどかった。

架け替えは、鈴川の治水上の拡幅工事に伴うもので、全長52.2㍎に延び、幅員は車道が6.5㍎の上下各一車線隣、両側にそれぞれ2㍎の歩道も設けられている。

立派に生まれ変わった同橋に地域の人達は大喜び。開通式では主催の寺田縄町内会の中島和久会長が「待望の開通式は皆様の協力のお陰」と、約百人の出席者を前に言葉を述べた。

神事、テープカットにつづいて、地区を代表した高齢夫婦の同市寺田縄、本田一男さん(81)テツさん(80)を先頭に、石川市長らも交えて和やかに渡り初め。

**湘南**

地域社会に根ざした総合建設業

**株式会社 門倉組**

藤沢市辻堂元町  
0466(36)170981

湘南西総局 (17254)  
 平塚市東町3-1  
 平塚支店 0463 241 0355  
 0463 241 0355  
 FAX 0463 241 0357  
 支 店  
 平 塚 0463 320 0355  
 小田原 0465 222 4456  
 FAX 0465 222 4488

(紙面の文言)

『平塚市の寺田縄、豊田地区の住民にとって待望の東橋の開通式が八日、架け替えられた同橋の西側袂で行われ、供用が開始された。

同橋は市内の中央を流れる鈴川に架かり、市道幹線の長持寺田縄線など三つの市道から、市中心部へ出る県道平塚伊勢原線とを結ぶ地域の交通のかなめ。だが架け替えられる前は全長21.8㍎、幅員2.4㍎が示すように、車が一台しか通れず、長い間、朝夕のラッシュ時の交通渋滞がひどかった。

架け替えは、鈴川の治水上の拡幅工事に伴うもので、全長52.2㍎に延び、幅員は車道が6.5㍎の上下各一車線隣、両側にそれぞれ2㍎の歩道も設けられている。

立派に生まれ変わった同橋に地域の人達は大喜び。開通式では主催の寺田縄町内会の中島和久会長が「待望の開通式は皆様の協力のお陰」と、約百人の出席者を前に言葉を述べた。

神事、テープカットにつづいて、地区を代表した高齢夫婦の同市寺田縄、本田一男さん(81)テツさん(80)を先頭に、石川市長らも交えて和やかに渡り初め。

雨の中、うれしそうに式を見守っていた近所の主婦たちも渡り初めの列に加わり、地域あげての“待望の大橋”ぶりが伝わってくる光景。

時間制限の一方通行や、重量制限など強いられ、とかく通行上のトラブルが絶えなかった悪評ともこれで縁が切れることになる。加えて周辺の市道も整備されたとあって、地域の人達の表情は雨を吹き飛ばす明るさだった。』

## ■ 東橋に設置されている計測器

### ○ 神奈川県平塚土木事務所管理

東橋の下流側に「河川監視カメラ」と「水位計」が設置されています。監視カメラは水位の状況を、水位計は流れの高さを数値で観測しています。



計測された結果は取り纏められ、関係部署に発せられています。神奈川県のHPに「神奈川県雨量水位情報」が発信され、東橋で観測されている水位情報も記載されています。東橋観測地点では、下記の防災対応が示されています。

(注)「水位が2m10cmになると水防団が危険回避のため、待機する」と読みます。

対 応	水位 m
水防団待機水位	2. 1 0
氾濫注意水位	2. 7 0
避難判断水位	3. 5 0
氾濫危険水位	4. 5 0

○ 平塚市防災危機管理部

新幹線高架の北側、「バス停東橋」駐輪場の脇に支柱が立てられ、2台の監視カメラが設置されています。



2台は違う方向を観測しています。  
一方の広角レンズは、鈴川の流れの様子を映しだし、他方、望遠レンズは橋の橋脚に設けられている「量水標」ととらえ、水位、流れの高さを観測しています。

支柱の先端には送信用のアンテナが設けられ、観測状況が直接市の担当課へ送られます。

観測は夜昼なく続いています。



観測の結果は、平塚市「ひらつか防災気象ウェブ」で検索することができます。

ウェブには、東橋観測点の雨量観測情報、水位観測情報、ライブカメラでの情報等が登載され、自然災害のうち、風水害への対応を考える重要な情報の把握ができます。



色別で橋脚に記された「水量標」です。  
鈴川の水位を測定します。

■ 神奈川県HPによると、『鈴川は「都市河川重点整備計画」(セイフティリバー)として位置づけ、重点的に整備を進めている。豊かで潤いのある河川環境を求める社会的要請に対応するため堤防緑化、親水護岸、魚巢ブロックなど工夫を凝らし、親水性を加味した改修手法を取り入れています』とあります。

親しまれる社会的環境の整備と最近の自然災害に対応する、安全安心の環境整備という両面からの対策が求められています。